

毎月5日と20日は
無火災推進日です

松ヶ崎消防報

平成25年1月14日
左京消防団松ヶ崎分団
分団長 芝山 宗昭

新年あけましておめでとうございます。

明けましておめでとうございます。2年続きの厳しい年でしたが、今年は皆様の気力・体力・知恵が存分に発揮され、上向きの年になることを願っています。

さて、消防分団長として松ヶ崎学区の安心・安全を、団活動を通じて振り返ってみます。予防および庶務の活動は例年同様でした。災害出動では、1月2日夕刻、葵学区内の火災（全焼・1人焼死）への応援が1件ありました。当学区内では、鍋空炊きや電線加熱発煙などの事故出動が4件、宝ヶ池入水・マラソン中急変・幼児錠操作閉じ込めなどの救命出動などが4件、火災警報器誤作動による出動（発報事案）6件などがありました。殆どが小規模ですが、出動回数が多かったのが印象です。

警防活動では、①集中豪雨が多く、南部の出水に対応する自宅待機を2回、井出ヶ鼻水門の泥上げも7月と9月に2回行ないました。②エコ学区指定事業の一環で行なわれた「宝ヶ池水澄まし作戦」参加小学生や父兄を保護するために、ボート上と水辺に分かれて2班で警備をしました。③送り火警備は例年通り、15人の団員が二手に分かれ、背負い式の散水具（ジェットシューター）を持って妙の山と法の山に展開しました。ここ4年間、立正会理事の立場で迅速な明るい炎の立上げを重視していたのですが、今回は消防指揮者の目で見ることが出来ました。割り木を十分に燃やし尽くして鎮火させる手順が不十分で、残り火の消火に署員に負担を掛けているケースが散見されたので、送り火踊り反省会を借りて、指摘させて頂きました。

岩倉で行なわれた市主催の総合防災訓練では、大震災時に高齢者がバスで避難会場に移動する場面があり、団員はAED持参で誘導しました。松ヶ崎小学校講堂で行なわれた自主防災会主催の防災訓練でも、避難会場に集合して避難生活を開始する手順や心構えの訓練がなされました。消防車が到着しない場合に団独自で放水消火するケースを想定して、小型動力ポンプ操作を披露しました。

以上の活動を通じて、「大規模災害時は消防署員の手が届かなくなり、消防団は主体的に、・被害者の救出、・避難場所救護場所への誘導、・避難生活物資搬送、にも関与せねばならない」との重点課題が見つかりました。具体的な対策としては、

① 消防団の東西南北中の5部の部長と自主防災会の8ブロック長との間で定期的に会合を持ち顔を繋ぐ、②各部における消火栓位置を確認すると共に水道が使えない場合を想定して河川からの取水可能位置を探索する、などを考えております。

団員一同、松ヶ崎学区安全増進のために精一杯努力しますので、ご助言、ご協力をよろしくお願いいたします。

左京消防団 松ヶ崎分団長 芝山 宗昭

消防分団活動に一層のご指援助力を

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

皆様方におかれましては、ご家族お揃いで、輝かしい新年を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。



私、昨年八月より再度、松ヶ崎消防分団後援会長を務めさせて頂くこととなりました。

引き続き御指導、御協力の程よろしく御願ひ申し上げます。

さて、本年は松ヶ崎学区自主防災連合会発足、五周年を迎えます。この五年の間には、消防分団のみではなし得なかった訓練も地域の皆様の協力のもとに、実施して頂きました。

今後も分団を先頭に、地域ぐるみで、防火防災に対する対応力を強化し続けなければなりません。

その為に団員も日々訓練に励んでいるところであります。

地域の皆様の安心と安全の確保を使命とし、頑張る消防分団に対し、一層の御支援、御協力の程よろしく御願ひ申し上げます。

松ヶ崎消防分団後援会 会長 三宅 秀典

消火器や火災警報機を備えましょう。ご購入は最寄りの分団員まで

左京消防団松ヶ崎分団員
二六名

分団長 芝山 宗昭

副分団長 西郡 藤夫 (総務担当)

副分団長 北川 憲一 (予防担当)

副分団長 小柳 憲治 (警防担当)

副分団長 佐橋 学 (教育担当)

東部担当 (井出ヶ鼻、小竹敷馬橋以北、河原田、樋ノ上、東、小脇)

部長 三宅 勝 (教育副担当)

班長 藤井 照夫

団員 高靖 敏

団員 永原 照士

北部担当 (御所ノ内、堀、中、西、西山)

部長 樋口 昂弘 (予防副担当)

班長 山田 徹

団員 梶 広 宣

中部担当 (雲路、鞍馬田、木ノ本、海尻、老町田、修理式、工織大)

部長 宇佐 美賢一 (総務副担当)

班長 三宅 祥文

団員 半井 達 弥

西部担当 (六ノ坪、井出ヶ海道、今海道、芝本、横縄手、三反長、呼返、泉川)

部長 河村 栄 二 (警防副担当)

班長 梅津 康 正

団員 矢野 博 敏

団員 島内 研

南部担当 (小竹敷馬橋以南、正田、久土、杉ヶ藪、茅ノ上、柳井田、東桜木、桜木、西桜木)

部長 蒔田 桂 三 (警防副担当)

班長 京極 康 生

団員 木村 宏 章

団員 今西 謙 介

団員の異動・退団

竹内 俊 隆

※ご苦勞様でした。(敬称略)

地域とともに

新年おめでとうございます。

平成25年の輝かしい新春を迎え、この一年が松ヶ崎学区の皆様にとりまして安心・安全で幸多き年となりますことをご祈念申し上げます。さて、昨年は、東日本大震災という未曾有の災害を教訓として、国を挙げて様々な防災対策の見直しが行われた年でした。

本市でも地域防災計画の見直しなどが推進される中、9月に地元左京区で実施いたしました京都市総合防災訓練では、原発からの放射性物質拡散を想定した避難訓練や、市民の皆様自らが避難所を運営する訓練も初めて取り入れられるなど、「想定外」をなくすための万に備えた体制づくりに市総体で取り組んでまいりました。

一方で、市内、左京区内ともに火災をはじめとした様々な災害の多い年でもありましたが、松ヶ崎学区におきましては、幸いなことに火災の発生はなく、これも地域の皆様と消防分団とがしっかりと連携され、防火・防災に努めていただいた、正に「地域力」の賜物と考えております。

左京消防署では、『区民の皆様との絆』を何よりも大切にすること、そして「信頼に応えられる力強い消防」であることをメインテーマとして、「予防消防の推進」、「消防活動体制の充実強化」、「応急手当の普及啓発、救命効果の向上」、「地域の災害対応力の向上」などの分野で、多岐にわたる事業を展開しております。

本年も地域の皆様のご意見やご要望に真摯に耳を傾けながら、地元消防団とも緊密に連携し、全力で「災害に強く安心して住み続けられる『安心都市・京都』」の実現に向けてまい進してまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

左京消防署長 石田 克弘

皆様と共に歩む自主防災を目指して！

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、家族お揃いで希望に満ちた新しい年を迎えられました事と心よりお慶び申し上げます。

平素は自主防災連合会に対し、ご協力、ご支援賜りありがたく厚く感謝申し上げます。

自主防災連合会は、住民の隣保共同の精神に基づく自主的な防災活動を行うことにより、地震、風水害、火災その他の災害による被害の拡大を未然に防止し、又は被害を軽減することを目的とした団体です。

目的を達成するために、火災及びその他の災害予防、防災に関する知識の普及、防災活動に必要な資材・器具の備蓄及び整備等、災害発生時の情報の収集伝達・出火防止・初期消火・救出救護・避難誘導・給食給水等の応急対策を心がけ、集大成として年一回総合防災訓練大会を実施しております。

このように広範囲に及びますので、普段身近に出来ることから皆様方の協力を得て、目的に向かって取り組んでいきたいと考えております。組織的には、学区を8ブロックに大別し、26の自主防災部、191の自主防災班の組織です。

各ブロック会長（一部のブロックに副会長選出）・防災部長（町内単位）・防災班長（隣組単位）と細かく細分され、有事の際に適切に対応できるように心がけております。

日常の防火・防災活動で、各ブロック単位、部単位の訓練に参加して頂くことで、町内での「絆」の基盤作りの手助けになればと思っております。

有事の際には平常心で行動が出来るように、又「自分の体は自分で守る」と言った自助の気持ちを養って頂く為にも、訓練等には積極的に家族揃って参加していただきますようお願い申し上げます。

これからも災害に強い町作りを目指し、松ヶ崎消防分団のご指導を得て、皆様方と共に歩んでいきたいと考えておりますので、重ねてご支援ご協力をよろしく申し上げます。

松ヶ崎学区自主防災連合会 会長 中島 熙泰

フレッシュマン紹介

2012年3月1日付で松ヶ崎消防分団に入団しました卯野貴也と申します。結婚を機に、伏見区桃山から松ヶ崎へ引っ越して参りました。地下鉄「松ヶ崎駅」ができると聞き、家内と訪れたのが16年前。こどもの楽園のトランポリンが大好きで、幼少の頃よりよく遊びに来たものですから、懐かしくもあり、何か不思議なご縁のようなものを感じていました。

仕事柄、出張が多く、2年ほど東京への単身赴任を経験する中で、帰京するたびに松ヶ崎の落ち着いた雰囲気と心を和ませ、また、その歴史の深さに感嘆しておりました。夏祭り、区民運動会、防災訓練、新宮神社例祭、子供フェスティバルなど行事も活発に行われ、今では「まっちゃきネットワーク」という地域団体にも所属して、積極的にお手伝い出来るように頑張っています。家族とともに暮らす安堵感に加え、こういった地域の方々との出会いが増えたことにも感謝しています。同世代の方々との接点が消防分団への入団のきっかけとなりましたが、防災という観点から、左京区全体、そしてわが町「松ヶ崎」への地域貢献を日々、勉強させて頂いております。

入団してほどなく、総合査閲という団体競技を経験し、左京区の27分団が、それぞれ高い意識のもとに統率の取れた活動をされていることを教えて頂きました。誰しもが感じになったと思いますが、3月11日の東日本大震災は、遠く離れた地方のことと切り離せない、常に身近にある災害の怖さであること。そして、人の繋がり、絆の大切さを決して風化させてはならないものとして、深く胸に刻んだ出来事だったと思います。分団員として、災害時は被害を最小限に抑えることを意識し、平時から防災に対する正しい知識を得て、これを的確に発信できるようにしなければならぬと感じています。未曾有の災害に備え、積極的な行動が取れる個としての力量を積み、常日頃からお互いの接点を意識し合い、地域防災に際して強い組織力と統率力を備える集団の一員になれるよう精進致します。

まだまだ若輩者ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



卯野 貴也